

# 大阪市西淀川区、鼻川神社の由来と鳥居

— 四ヶ国語(日英韓中)用語・鳥居の測量値と模型製作 —

沢 勲\*・富田 和広\*\*・肥塚 義明\*\*\*

(大阪経済法科大学名誉教授\*・県立広島大学教授\*\*・洞窟環境 NET 学会事務局長\*\*\*)

## History of the Hanakawa Shrine and its Torii, Nishi-Yodogawa Ward, Osaka City.

—Multilingual Translation in Japanese, English, Korean and Chinese,

Survey Values of the Torii and Fabrication of its Model—

Isao SAWA\*・Kazuhiro TOMITA\*\*・Yoshiaki KOEZUKA \*\*\*

### ABSTRACT

We study an origin and the torii environment of the Hanakawa Shrine in Nishiyodogawa-ku, Osaka-City, and there is the study of the writers for the purpose of making the database of the cultural heritage. Foundation of the Hanakawa Shrine is unknown. The construction age of the torii in Nishi-Yodogawa Ward is a range for 2007 years from 1981511. The number of toriis that exists in the Hanakawa Shrine is seven. The construction age of the torii that exists in the Hanakawa Shrine is a range for 1981 years from 1962.

Worshipped Gods of the Hanakawa Shrine is the Empress Jingu, the Susanoo-no-Mikoto. Key word of the Hanakawa Shrine is the Empress Jingu, the Nozato ferry, a.k.a. the Kashiwa-no ferry and the Yodogawa repair work.

The origin of the Hanakawa Shrine supported in the globalization times and translated it into multilingual translation (Japanese-English-Korea and Chinese). Data concerning the torii environment was analyzed by the scientific management method. The torii height in Nishiyodogawa-ku is 2.17 m ranges from 6.59m. The torii height in the Hanakawa Shrine is 2.45m ranges from 5.22m.

キーワード:神功皇后、かしわの渡し、淀川改修工事

**Keywords:**the Empress Jingu, the Nozato ferry, a.k.a. the Kashiwa-no ferry, the Yodogawa repair work  
[洞窟環境 NET 学会 紀要 2 号][*Cave Environmental NET Society(CENS)*、Vol.2(2011)、 - pp]

### 目次

#### 1. はじめに

#### 2. 鼻川神社の4ヶ国語(日英韓中)由来

2-1.鼻川神社の日文由来

2-2.鼻川神社の英文由来

2-3.鼻川神社の韓文由来

2-4.鼻川神社の中文由来

#### 3. 鼻川神社鳥居の模型制作と構造観察

3-1.鼻川神社鳥居の写真と模型製作

3-2.鼻川神社鳥居の構造観察

#### 4. 鼻川神社鳥居の計測結果と解析

#### 5. 鼻川神社鳥居の考察

5-1.西淀川区内の鳥居文化の建立

5-2.西淀川区内の鳥居の貫と笠木高さ

5-3.西淀川区内にある正面の鳥居の貫と笠木の高さ

5-4.西淀川区内にある稻荷神社系の鳥居の貫と笠木の高さ

5-5.西淀川区にある金毘羅神社系の鳥居の貫と笠木の高さ

5-6.全国と西淀川区内の鳥居の高さ

## 6. おわりに

6-1.西淀川区の地域環境 6-2.西淀川区にある鼻川神社の調査要約

## 1. はじめに

本研究は、大阪の文化遺産学として、地域に貢献する資料を後世に残す参考文献として作成したのである。本稿は、大阪市西淀川区、鼻川神社で行った洞窟環境 NET 学会と関西大学校友会西淀川支部鳥居総合学術調査平成22(2010)年報告の一部である。西淀川区は、大阪府大阪市の最西端に位置し、東西約 5.31km、約南北 5.94km、境界線距離約 17.68km、総面積 14.23km<sup>2</sup>、人口 99,090 人である。鼻川神社は、西淀川区の最東端に位置し、標高 3m、緯度 34°42'22"N;経度 135°27'55"にある。鼻川神社の鎮座地は、行政上、大阪市西淀川区花川 2-1-12 に属する。本神社に関してはこれまで本格的な学術調査は少ない、新淀川と交差する旧中津川が接近した位置にあり、台風や水害が多く、貴重な歴史文化遺産が消失しているため、歴史の文化遺産をどのように保存できるかを工夫したのである。後世に残す貴重な遺産を継承する関連性も興味深く、そうした点が本神社調査の最初の動機となった。写真 1 の左は、西淀川区誕生時の地図、大正 14(1925)、写真 1 の中央は、鼻川神社の位置図、写真 1 の右は、鼻川神社の社殿である。



西淀川区誕生時の地図、大正 14(1925)



鼻川神社位置は②番



鼻川神社社殿の建築様式は住吉造

### 写真 1. 大阪市西淀川区にある鼻川神社の位置と本殿写真

既存の神社関連資料情報を収集して、調査と鳥居の規模と形態、成因等についての概要を把握し、構成要素の現象を示す事実を明らかにした。そして、区内にある神社と鳥居の大きさに重要な関連性があることを予測した。ただし、区内において、神社と鳥居の存在に関する報告はこれまで皆無である。

単に生駒山の火山活動史だけでなく、北摂の堆積流とその沿岸地域の海岸地形発達史や環境変遷史との関わりで、神社がどのような位置づけや問題点を有しているかという検討が重要である。鼻川神社と行政との関連歴史の結果は、①淀川水系旧中津川口のデルタ地帯上に発達し、対岸に突き出だした半農半漁の集落。②社記に「神功皇后が、鹿島にお出でになった時、この地にお立ち寄りになられた、住民たちは取り急ぎ、つき立ての餅を柏の葉に載せ、野に咲いていた草花を添え、地名は、対岸に突き出した地形が“鼻”のようで、“はなかわ”、渡しを“かしわ”と命名。③以来、この地を“鼻川の里”、渡しを“かしわの渡し”と呼び習わしている。④この名を記念してお堂を建て、神功皇后をお祀りした。⑤後に、対岸の海老江の氏神である須佐之男命を祀って『鼻川の社』と称する。⑥祭礼には、柏餅と菜の花を束ねて御供えする」と記されている。⑦承久 3(1221)年、神前に豊作を祈願したところ、希にみる豊作となり、集落挙げて感謝、一粒万倍の御利益を賜ったとして、社地を「万倍の地」と称する。⑧明治 30(1897)年、淀川改修工事で社地が河川敷にかかったため、堤防外側に移転。その際、大阪府の神社整理の意向に沿って、姫島神社と書類合併。⑨昭和 9 年(1934 年)、現在の社殿を建てた。

さらに、神社の鳥居の件には、一応の成果が得られたので、解析を行ったのは、①神社の鳥居の写真撮影、②鳥居の精密測量(鳥居の測量値と模型製作)、特に平面と縦断面計測である。平成 22 年(2010 年)夏、西淀川区民祭りにおいて中間報告を行った。今後の研究課題、そして神社の保全と環境問題などについて所見を整理した。さらに、短時間の調査であったため、未解明の事項が少なくない。今後も調査を継続する予定であるが、とりあえずこれまでの成果、今後の研究課題、そして神社の保全問題などについて所見を整理した。測量した値は、多項式によって解析を行った。本報においては、大阪市西淀川区、鼻川神社の由来と鳥居に関する四ヶ国語(日英韓中)用語、鳥居の測量値解析と模型製作と観察を行った結果について報告する。

## 2-1. 鼻川神社の日文由来

当地は、古く淀川水系旧中津川口の三角州(デルタ地帯)上に発達し、対岸に突き出だした半農半漁の集落であった。社記に「神功皇后が、鹿島にお出でになった時、この地にお立ち寄りになられた。高貴の方のお出でを知った住民たちは取り急ぎ、つき立ての餅を柏の葉に載せ、野に咲いていた草花を添えてお出しすると、皇后はこれをことのほかお喜びになり、賞味された。その時、地名が無いことを聴かれて、対岸に突き出した地形が“鼻”のように変わっているからと、地名を“はなかわ”、渡しを“かしわ”と命名された。以来、この地を“鼻川の里”、渡しを“かしわの渡し”と呼び習わしている。また、この名を記念してお堂を建て、神功皇后をお祀りした。後に、対岸の海老江の氏神である須佐之男命(すさのみこと)を祀って『鼻川の社』と称し、祭礼には、柏餅と菜の花を束ねて御供えする」と記されている。

半農半漁の集落は、「度々水害に遭い、幾度も社殿を修復・改築し、祭の時は住民が交替で祭費を集め、宮座を組み、その経費を賄ってきた」とも書かれている。その当番頭を“とや”と称し、神事一切を主宰し、御供物も調達、煮物を献ずる習慣を受け継ぐなど、厳粛に奉仕し、無言の行事として伝統を承継してきた。承久 3(1221)年、神前に豊作を祈願したところ、希にみる豊作となり、集落挙げて感謝、一粒万倍の御利益を賜ったとして、社地を「万倍の地」と称し、同年社殿を改築し、通常のお供えの外、初めて甘酒を献じたという。万倍の地名は現在も残っている。

明治 30(1897)年、淀川改修工事で社地が河川敷にかかったため、堤防外側に移転。その際、大阪府の神社整理の意向に沿って、姫島神社と書類合併。しかし、その後も、村民挙げて基本金を積立てるなどして再興に務め、大正 13(1924)年 8 月、独立神社として承認され、昭和 9(1934)年、現在の社殿を建てたのである。(神社データから一部修正)

表 1. 大阪市西淀川区、鼻川神社の詳細資料

御祭神	神功皇后、素盞鳴尊(すさのおのみこと)		
キーワード	八坂神社、神功皇后、かしわの渡し、万倍の地、淀川改修工事		
鎮座地	555-0023 西淀川区花川 2-1-12	神社創建	創建不詳
電話番号	06-6471-3903	Fax 番号	06-6473-1986
ホームページ	<a href="http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html">http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html</a> <a href="http://www.jinjacho-osaka.net/m01k_06_nisiyodogawa_hanakawa.html">http://www.jinjacho-osaka.net/m01k_06_nisiyodogawa_hanakawa.html</a>		
交通手段	阪神姫島駅東へ・JR「塚本駅」西へ 800m		

## 2-2. 鼻川神社の英文由来

### (History of the Hanakawa Shrine Whose Foundation Date Is Unknown)

This was farming and fishing village of conduct on the delta of old Nakatsu-river in Yodo-river system. The written record of the shrine is as follows. When Empress Jingu came to KAJIMA, you dropped in at this ground. The Empress Jingu came here, the villagers were served fresh rice cake placed on “the Kashiwa,” leaves along with wildflowers, and then she was delighted taste.

She was named ‘Hanakawa’ landscape with a nose like and ferry to ‘Kashiwa’. Since then, ‘Hanakawa no sato’ and ‘Kashiwa no watashi’ now called. In addition, ‘Dou’ was built in commemoration of this name, and it deified Empress Jingu. Hanakawa Shrine would enshrine patron saint - the Susanoo-no-Mikoto of

Ebie in the opposite bank later and called myself "Hanakawa Shrine". At the festival, it is describing "kashiwa-mochi" and rape blossoms were offered.

As for the farming and fishing colony, "flood damage was encountered frequently, shrine pavilions were restored and rebuilt many times, at the time of a festival, residents collected festival expense by turns, and the household head was constructed, and it has covered the cost" is written. I named the turn head "unpleasant" (Toya) and presided over act of God all and inherited the custom that the votive offering offered a supply, food boiled and seasoned and served it solemnly and succeeded tradition as an event of the silence.

The villagers are grateful to the good harvest, so they gave the sweet sake restored the shrine and called here 'Manbai no chi', in 1221. 1897, Outside of the bank transfer for the renovation of the Yodo-river. At the same time, merged with Himeshima shrine in the instruction of Osaka prefecture. But they aimed to collect funds for revival. But they aimed to collect funds for revival. 1924 The separate shrine. 1934 Built a new shrine.

*We partially adapted these details from Shrine Data.*

表 2. 大阪市西淀川区、鼻川神社の詳細資料(和英訳)

Table2. Details on the Hanakawa Shrine, Nishi-Yodogawa Ward, Osaka City

Worshipped Gods	The Empress Jingu, the Susanoo-no-Mikoto		
Key Words	The Empress Jingu, the Nozato ferry, a.k.a. the Kashiwa-no ferry, the Yodogawa repair work		
Site	555-0023,2-1-12,Hanakawa, Nishi-Yodogawa Ward	Foundation	unknown
Telephone	06-6471-3903	Fax	06-6473-1986
Websites	<a href="http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html">http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html</a> <a href="http://www.jinjacho-osaka.net/m01k_06_nisiyodogawa_hanakawa.html">http://www.jinjacho-osaka.net/m01k_06_nisiyodogawa_hanakawa.html</a>		
Access	To the Hanshin train "Himeshima station" east or 800m to JR "Tsukamoto station" west.		

2. 3. 鼻川神社の韓文由来 (하나카와 신사의 유래)

이 지역은 옛날부터 요도가와 물길인 옛날 구나카즈 강 입구의 삼각주(델타지대) 위에 발달해 강 건너편에 마을이 형성된 농사 반 어업 반의 촌락이었다. 사기에 「진구황후가 카시마에 갔을때, 이 땅에 들렀는데 고귀한 분의 출타를 안 주민들은 서둘러 막 만든 떡을 복숭아 잎에 놓고 들에 피어있던 들꽃을 같이 바쳐서 황후는 이것을 알고 크게 기뻐하여 상을 내렸다. 그 때, 지명이 없는것을 듣고 지형이 “코” 처럼 변했기 때문이라고 하여 지명을 “하나카와” 에서 “와타시오 카시와” 로 이름지었다. 이후로, 이 땅을 “하나카와의 마을” 로 부르게 되었다. 또한, 이 이름을 기념해서 사당을 세우고 진구황후를 제사지냈다. 그 후에, 강 건너편의 에비에의 씨족신인 스사노오노 미고토를 모시고 『하나카와의 사당』으로 칭하고, 제례로는 복숭아 떡과 유채꽃을 묶어 공양했다」 라고 기록하고 있다.

반농사 반어업의 취락은, 「종종 수해를 당하여 몇번이고 신전을 수복·개축하고 제사를 지낼때는 주민이 교대로 제사비용을 모아 제단을 꾸미고 그 비용을 조달해 왔다」 라고도 쓰여져있다. 그 제사 담당자를 “토야” 로 칭하고 제사의 일체를 주재하며 각종 봉헌물을 조달, 어물을 바치는 습관을 계승하게 하는 등, 엄숙히 봉사하고 무언의 행사로 전통을 계승해 왔다. 1221 년, 신전에 풍작을 기원했는데 오랫동안 풍작을 이뤄 모두모여 감사를 드리고 만배의 이익을 얻어 사지를 「만배의

땅」으로 칭하고, 동년 사당을 개축해, 통상 봉헌하는 것 이외에 처음으로 감주를 봉헌했다고 한다. 만배의 지명은 현재도 남아있다.

메이지 30(1897)년, 요도가와 개수공사때, 사당이 하천부지에 들어있어, 재방 바깥쪽으로 이전했다. 그 후, 오사카 후의 신사정리 계획에 의해 히메시마 신사와 문서를 합침다. 그러나, 그 후에도 마을사람들이 다같이 모여 재건에 힘써, 다이쇼 13(1924)년 8 월, 독립신사로서 계승되어, 쇼와 9(1934)년, 현재의 사당을 건립하게 되었다.

(주) : 1. 진구황후는 유아이천황의 황후. 유아이천황의 사망(200 년) 후, 스미요시대신의 신탁에 따라 배속에 아이(후에 오우신 천황)를 임신한 채 바다를 건너 조선반도에 출병해 신라를 공격했다. 진구황후는 아무것도 하지않았으나 바다의 물고기들이 배들을 등에 업고 운반하고, 순풍이 불고 파도는 신라의 대륙까지 덮쳐 도착했다 라고 전해지고 있다. 이 신라 정벌에 있어, 진구황후는 오미와신에 검과 방패를 봉헌하고 모든나라에 명령하여 쯔쿠시에 병사와 배를 모으고 황후자신은 남장을 하여 함선을 꾸미고 스미요시대신(스미요시 대사당 : 오사카시스미요시구 스미요시)의 혼령을 모시고 선봉에 섰다라고 한다.

表 3. 大阪市西淀川区、鼻川神社の詳細資料(和韓訳)  
표 3. 오사카시니시 요도마와구, 하나카와신사의 상세 데이터

모시는 신	진구황후, 수사노오노미고토		
키워드	진구황후, 카시와의 아타시, 만배의 땅, 요도가와 개수공사		
진좌지	555-0023 니시 요도가와구 하나카와 2-1-12	신사창건	
전화번호	06-6471-3903	Fax 번호	06-6473-1986
홈페이지	<a href="http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html">http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html</a> <a href="http://www.jinjacho-osaka.net/m01k_06_nisiyodogawa_hanakawa.html">http://www.jinjacho-osaka.net/m01k_06_nisiyodogawa_hanakawa.html</a>		
교통수단	한신 히메시마역 동쪽으로・JR「쓰카모토역」서쪽으로 800m		

#### 2.4. 鼻川神社の中文由来 (鼻川神社的由来)

当地是由古代淀川水系旧中津口的三角洲(三角洲地带)上发展起来, 向对岸突起的一个半农半渔的村落。根据社记的记载, 它是被这样描述的“神功皇后巡访鹿岛时曾到过这个地方, 当地的村民得知这样一位尊贵的人物到来的消息, 莫不争先恐后的以柏树的叶子把刚做好的年糕包裹起来, 并挑选了野外开的正艳的花草来做点缀, 用来招待这位皇后, 对于村民的热情, 皇后格外地开心, 并享用了村民送来的食物。听说此地还未取名, 边因向对岸突出而变得像鼻子一样的地形, 便分别以“鼻川”和“柏”来为当地以及当地的渡口命名。同时, 为了纪念这个名字专门修起了祠堂, 并供奉起了神功皇后。后来, 改为供奉海老江的神明—须左之男命, 被称作“鼻川的神社”, 祭礼的时候把柏饼和花扎成束来供奉神明”

根据记载, 这个半农半渔的村落在当时“时常遭遇水灾, 数度修复改建神殿, 以祭祀时村民们轮流筹集祭祀时的费用, 组织祭祀团体, 并负责其他经费”当值的领头被称作“鹰”, 主管祭祀时的一切事物, 供品的办置以及供菜的习惯的传承等等都要严格地遵守, 并把这个沉默的仪式作为传统一直传承下去。承久 3(1221)年, 因在神前祈祷丰收后不久, 果真灵验, 为表示神明一粒万倍的恩赐, 全村上下无不表示感激之情, 把神社所在地成为“万倍之地”, 并与同年改建大殿, 供品也初次加入了甜酒一项。“万倍”这个地名也流传至今。

明治 30(1897)年, 淀川进行修复工程而神社因地基正好位于河床之上, 便迁移到提防外侧。恰逢此时大阪府正在进行神社整理, 于是按照规划与姬岛神社的资料档案并在了一起。尽管如此, 当时的村民并未放弃神社的复兴, 不断地筹集基本基金等等, 终于于大正 13(1924)年 8 月, 被批准为独立的神社, 而现在的大殿则是于昭和 9(1934)年所建。(选自神社的资料, 有部分订正)

注1.神功皇后是仲哀天皇的皇后。仲哀天皇骤亡(200 年)后, 遵循住吉大神的神谕, 正怀有身孕(后来的

应神天皇)的神功皇后渡海出征朝鲜半岛，并攻下了新罗国。据说神功皇后当时不费吹灰之力，由海里的鱼载着大船，加上顺风卷起的海浪直接把军队送到了新罗的土地上。这次征讨新罗之行，神功皇后为大三轮神奉上剑和矛，命令诸国把士兵和船队都聚集在筑紫，而皇后自己则作为先锋，身着男装，组织船队，并招来了住吉大神(住吉大社 大阪市住吉区住吉)的荒御魂。

表 4.大阪市西淀川区、鼻川神社の詳細資料(和中訳)

表 4. 大阪市西淀区，鼻川神社的详细资料

祭神	神功皇后，素盞鸣尊		
关键词	神功皇后，“柏”渡口，万倍之地，淀川修复工程		
供奉地	555-0023 西淀川区花川 2-1-12	神社创建	天平宝字 19(800)年
电话号码	06-6471-3903	Fax 传真	06-6473-1986
主页	<a href="http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html">http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html</a> <a href="http://www.jinjacho-osaka.net/m01k_06_nisiyodogawa_hanakawa.html">http://www.jinjacho-osaka.net/m01k_06_nisiyodogawa_hanakawa.html</a>		
交通手段	阪神姫島站往东，JR“塚本站”往西 800m		

### 3. 鼻川神社鳥居の模型制作と構造観察

#### 3-1. 鼻川神社鳥居の写真と模型製作

鳥居とは神霊として鳥を招く意味である。鳥居とは神霊として鳥を招く意味。構造は2本柱に2本横木(笠木と貫)から構成。神明系と明神系の鳥居は、笠木の下に島木が無と有(装飾)の違い、笠木の反りの有(神明系)と無(明神系)による。明神系鳥居の貫には、出る(中山鳥居を除く)と出ない(中山鳥居)のが区分できる。神明系鳥居の貫には、出る(鹿島鳥居を除く)と出ない(鹿島鳥居)のが区分できる。

神明(しんめい)系鳥居には、次のような特徴がある。鳥居の名称には、上層部から反り増し、笠木、島木、台輪、楔、額束、貫、根巻・藁座、亀腹・饅頭の9部分と、これらを支える両側に柱がある。すなわち、

①伊勢(いせ)・神明(しんめい)は、伊勢斎宮。笠木が鎬の五角形で屋根への発展を示す。両端は下方に向かって斜め。貫は貫通せず、楔で固定。柱の円柱は転び(傾斜)がない特徴である。神明系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱は丸柱・垂直、反り増しは無、笠木は丸型直線、島木・台輪は無、楔は有、額束は無、貫は丸型内側、根巻・藁座は有、亀腹・饅頭は有、構造はシンプル、類似鳥居は伊勢内外神宮・熱田神宮(伊勢鳥居)である。

②鹿島(かしま)鳥居は、貫が四角、柱が出る。貫の特徴は柱の外に張るのが特徴である。神明系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱は丸柱・垂直、反り増しは無、笠木は丸型直線、島木・台輪は無、楔は無、額束は無、貫は角型外側、根巻・藁座は無、亀腹・饅頭は無、構造は笠木・貫の両端は垂直切断、類似鳥居は鹿島神社である。

③黒木(くろき)・素木(しらき)は、皮付き丸太をそのまま使用した円柱二本が垂直で、上部に円柱形の笠木を載せる。貫は円柱を載せ、柱を傾斜させない特徴がある。神明系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱は丸柱・垂直、反り増しは無、笠木は丸型直線、島木・台輪は無、楔は無、額束は無、貫は丸型内側、根巻・藁座は無、亀腹・饅頭は無、構造はシンプル、類似鳥居は伊勢斎宮・野宮斎院である。

④靖国(やすくに)は、2本の垂直な丸柱、上部に丸型の笠木が乗り、貫が四角(断面長方形)の角材である特徴。額束や楔などもない質素な構成である。神明系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱は丸柱・垂直、反り増しは無、笠木は角型直線、島木・台輪は無、楔は無、額束は無、貫は角型内側、根巻・藁座は無、亀腹・饅頭は無、構造はシンプル、類似鳥居は神明鳥居である。



鳥居とは神霊として鳥を招く意味である。鳥居の名称には、上層部から反り増し、笠木、島木、台輪、楔、額束、貫、根巻・藁座、亀腹・饅頭の9部分と、これらを支える両側に柱がある。明神(みょうじん)系鳥居には、次のような特徴がある。すなわち、

①稲荷(いなり:台輪(だいわ))は、島木の下に構造的補強した大輪形。柱の上部、島木と接する箇所に台輪がある特徴。台輪鳥居と呼び、楔あり。明神系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱は丸柱・内傾斜、反り増しは有、笠木は角型曲線、島木は角型曲線、台輪は有、楔は有、額束は有、貫は角型外側、根巻・藁座は無、亀腹・饅頭は有、構造の笠木・島木は斜め切断、類似鳥居は伏見稲荷大社(台輪鳥居)等である。

②春日(かすが)は、島木の上にある笠木の端が垂直であり、貫中央に額束がある。明神系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱には傾斜がある。柱は丸柱・内傾斜、反り増しは有、笠木は角型曲線、島木は角型曲線、台輪は無、楔は有、額束は有、貫は角型外側、根巻・藁座は無、亀腹・饅頭は有、構造の笠木・貫は垂直切断、類似鳥居は春日大社等である。

③春日大社。山王(さんのう)は、笠木の上に破風型をした合掌の形状であり、合掌は神仏習合を表現する特徴であり、破風鳥居・総合鳥居とも言える。明神系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱は丸柱・垂直、反り増しは有、笠木は角型曲線、島木は角型曲線、台輪は有、楔は有、額束は有、貫は角型外側、根巻・藁座は有、亀腹・饅頭は無、構造の破風状の合掌が最上部、類似鳥居は日吉大社・破風鳥居・総合鳥居等である。

④住吉(すみよし・中山(なかやま))は、柱が四角(角柱)になっている特徴があり、大阪・住吉大社の神門前の鳥居が有名である。明神系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱は角柱・垂直、反り増しは有、笠木は角型曲線、島木は角型曲線、台輪は無、楔は無、額束は有、貫は角型内側、根巻・藁座は無、亀腹・饅頭は無、構造の四角柱、類似鳥居は明神鳥居・住吉神社等である。

⑤八幡(はちまん)は、笠木端が斜めで、鳥居笠木の両端を斜めに切り落した特徴があり、春日鳥居とよく似た形であり、楔がある。明神系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱は丸柱・垂直、反り増しは有、笠木は角型曲線、島木は角型曲線、台輪は無、楔は有、額束は有、貫は角型外側、根巻・藁座は無、亀腹・饅頭は無、構造の笠木・島木は斜め切断、類似鳥居は石清水八幡宮等である。

⑥明神(みょうじん)は、最も普通の鳥居であり、笠木と島木に反り、笠木・島木の両端は斜め、柱根元には亀腹があるのが特徴である。明神系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱は丸柱・内傾斜、反り増しは有、笠木は角型曲線、島木は角型曲線、台輪は無、楔は有、額束は有、貫は角型外側、根巻・藁座は無、亀腹・饅頭は有、構造の笠木・島木は斜め切断、類似鳥居は神田神社等である。

⑦三輪(みわ)は、扉の有無関係なく三輪の鳥居であり、横の脇鳥にある鳥居は付属であり、大鳥居の左右に小型の鳥居を付けた特徴がある。明神系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱は丸柱・4本柱、反り増しは有、笠木は角型曲線、島木は角型曲線、台輪は無、楔は有、額束は有、貫は角型外側、根巻・藁座は無、亀腹・饅頭は有、構造の脇に鳥居・左右に腹柱、類似鳥居は大神神社・三光鳥居等である。



正面大鳥居の構造は  
明神系鳥居。



正面鳥居の模型



拝殿横の構造は  
明神系鳥居。



稲荷神社の構造は  
明神系鳥居

## 写真2. 鼻川神社鳥居の写真と模型写真

⑧両部(りょうぶ)は、両部に神道の理念を表した柱に袖柱が付属している特徴で、後に控柱(稚児柱)を設けている。明神系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱は丸柱・6本柱、反り増しは有、笠木は角型曲線、島木は角型曲線、台輪は有、楔は有、額束は有、貫は角型外側、根巻・藁座は無、亀腹・饅頭は有、構造の笠木・島木は斜め切断、類似鳥居は厳島神社・気比神社等である。

写真 2 は鳥居の写真と模型製作品である。模型は大阪市西淀川区、姫神社にある鳥居の測量値から 20 分の 1 に縮小にした製作品である。

### 3-2. 鼻川神社鳥居の構造観察

表 5 は鼻川神社鳥居の構造観察を行った。鳥居の項目別に要約を行った。①反り増しの角型曲線の有は、正面大鳥居、拝殿横の鳥居と稲荷神社鳥居の 3 末社である。②島木の角型曲線の有は、正面大鳥居、拝殿横の鳥居の 2 末社であり、角型直線の有は、稲荷神社鳥居の 1 末社である。③台輪(だいわ)は、すべて無である。④楔(くさび)と額束(がくづか)は、全 3 末社が有である。⑤貫(ぬき)四角外側は、正面大鳥居、拝殿横の鳥居と稲荷神社鳥居の 3 末社である。⑥根巻・藁座(わらざ)の無は、正面大鳥居、拝殿横の鳥居と稲荷神社鳥居の 3 末社である。⑦亀腹・饅頭の無は、正面大鳥居、拝殿横の鳥居の 2 末社で、有は稲荷神社鳥居の 1 末社である。

次は、末社別に特徴を要約する。

①正面大鳥居と拝殿横の鳥居では、反り増しと島木は共に角型曲線であり、台輪は無、楔と額束は共に有であり、貫は四角外側で、根巻・藁座と亀腹・饅頭は無である。鳥居の構造は明神系鳥居である。

②稲荷神社鳥居では、反り増しと島木は共に角型曲線であり、台輪は無、楔と額束は共に有であり、貫は四角外側で、根巻・藁座は無、亀腹・饅頭は有である。鳥居の構造は明神系鳥居である。

表 5. 大阪市西淀川区、鼻川神社鳥居環境の構造観察

鳥居名	反り増し	島木	台輪	楔	額束	貫	根巻・藁座	亀腹・饅頭	構造
正面大鳥居	角型曲線	角型曲線	無	有	有	四角外側	無	無	明神系鳥居
拝殿横の鳥居	角型曲線	角型曲線	無	有	有	四角外側	無	無	明神系鳥居
稲荷神社鳥居	角型曲線	角型直線	無	有	有	四角外側	無	有	明神系鳥居

## 4. 鼻川神社鳥居の計測結果と解析

鼻川神社鳥居は 5 基で、鳥居の測量は、レーザー、巻尺、棒尺によって行われた。鼻川神社の 3 鳥居の測量値と建立年代は次の通りである。①正面鳥居の構造は明神系鳥居。柱の直径は 0.48m、柱内側幅 3.90m、高さ(笠木上点 5.04m、頂点 5.22m)。高さは区内上位。②拝殿横の鳥居の構造は明神系鳥居。柱の直径は 0.29m、柱内側幅 2.41m、高さ(笠木上点 3.22m、頂点 3.33m)。③稲荷神社鳥居の構造は明神系鳥居。柱の直径は 0.18m、柱内側幅 1.66m、高さ(笠木上点 2.39m、頂点 2.45m)。

表 6 は、大阪市西淀川区、鼻川神社鳥居の測量値(m)である。神社の鳥居に対して、柱断面(円周と直径)、柱内側の幅(内側間と中心間)、貫高さ(下点と上点)、笠木高さ(下点と上点と頂点)を区分して計測資料を表示している。

表 6. 大阪市西淀川区、鼻川神社鳥居環境の測量値(m)

鳥居名	柱断面		柱		貫高さ		笠木高さ	
	円周	直径	柱間幅	中心間	下点	上点	下点	上点
正面大鳥居	1.49	0.48	3.90	4.36	3.70	4.08	4.57	5.04



稲荷神社鳥居	0.58	0.18	1.66	1.84	1.87	2.02	2.21	2.39
拝殿横の鳥居	0.92	0.29	2.41	2.76	2.37	2.61	2.93	3.22
最大値	1.49	0.48	3.90	4.36	3.70	4.08	4.57	5.04
平均値	1.00	0.32	2.66	2.99	2.65	2.90	3.24	3.55
最小値	0.58	0.18	1.66	1.84	1.87	2.02	2.21	2.39

鼻川神社鳥居の規模は、全西淀川区内の鳥居の規模と比較を行ったのである。ベスト 10 にある鳥居の高さとして、柱間幅のみ 1 基である。平均貫下高さと同平均貫上高さは、2.65m と 2.90m である。この値により算術すると貫の厚さは、0.35m である。平均笠木下高さと同平均笠木上高さは、3.24m と 3.55m である。この値により算術すると笠木の厚さは、0.31m である。ここで、この貫の厚さは、笠木の厚さより厚くなっている。

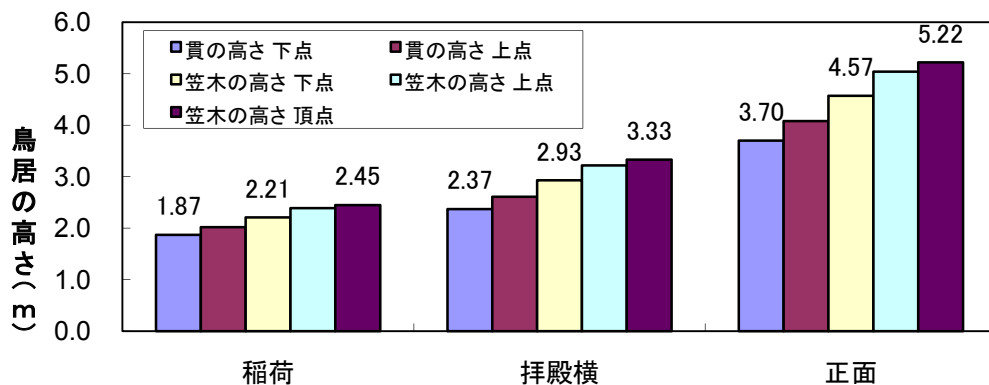


図 1. 鼻川神社鳥居の柱間幅と高さとの関係

次に貫上高さと同笠木上高さについて、計測値と同計算値の誤差が得られた。平均貫下高さは 2.65m(計測値)と同 9.1 直径の高さは 2.91m(計算値)で、誤差は -0.26m(26cm)である。平均貫上高さは 2.90m(計測値)と同 9.9 直径の高さは 3.17m(計算値)で、誤差は -0.27m(27cm)である。平均笠木下高さは 3.24m(計測値)と同 11.2 直径の高さは 3.58m(計算値)で、誤差は -0.34m(34cm)である。平均笠木上高さは 3.55m(計測値)と同 11.8 直径の高さは 3.78m(計算値)で、誤差は -0.23m(23cm)である。平均貫下と同上の高さにおける計測値と同計算値の誤差は、26.5cm である。平均笠木下と同上の高さは、23~34cm である。

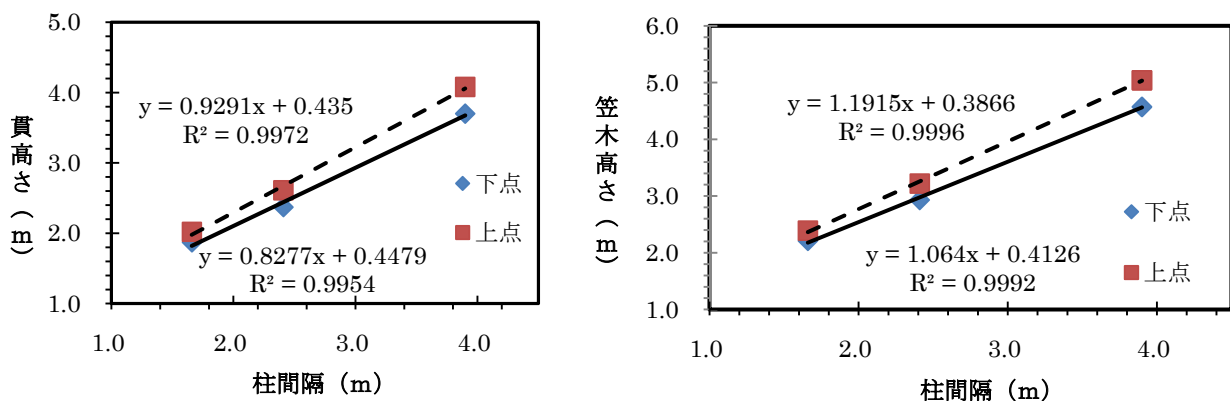


図 2. 鼻川神社鳥居の柱間幅と高さとの関係

図 1 は、表 6 から鼻川神社鳥居の柱間幅と高さとの関係を表示したのである。柱間隔は 1.66～3.90m の範囲で、平均 2.66m である。貫高さは、下点の範囲(1.87～3.70m、平均 2.65m)と上点の範囲(2.02～4.08m、平均 2.90m)である。笠木高さは、下点の範囲(2.21～4.57m、平均 3.24m)と上点の範囲(2.39～5.04m、平均 3.55m)である。図 2 は、鼻川神社鳥居の柱間幅と高さとの関係を表示し、回帰分析を行った。

$$Y(\text{貫高さ: 上}) = 0.929(\text{柱間幅}) + 0.435 \dots \text{決定係数}(R^2 = 0.997) \dots \dots \dots (1)$$

$$Y(\text{貫高さ: 下}) = 0.828(\text{柱間幅}) + 0.445 \dots \text{決定係数}(R^2 = 0.995) \dots \dots \dots (2)$$

鼻川神社鳥居の範囲では、鳥居の柱間幅が増大するにつれ、貫高さは共に増大の傾向である。式 1 と式 2 の勾配は、それぞれ 0.929 と 0.828 である。式 1 と式 2 の決定係数は、それぞれ 0.997 と 0.995 である。式 1 の勾配と決定係数は、式 2 によりわずかに大である。貫上高さの勾配は、貫下高さよりわずかな相違点が判明した。

図 2 右は、鼻川神社鳥居の柱間幅(X 軸で単位は m)と笠木下高さ(Y 軸で単位は m)との関係を究明するため測量値を図示した。鳥居上点である系列■表示は、直線方程式の破線、鳥居下点である系列◆表示は、直線方程式の実線である。笠木下の高さは 11.2D(11.2 は 9.9 と 1.3 の和である)と笠木上の高さは 11.8D(11.8 は 11.2 と 0.6 の和である)に計算する外山晴彦(平成 20(2008)年)手法を引用した。計算値と測量値との関係を究明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$Y(\text{笠木高さ: 上}) = 1.192(\text{柱間幅}) + 0.387 \dots \text{決定係数}(R^2 = 0.9996) \dots \dots \dots (3)$$

$$Y(\text{笠木高さ: 下}) = 1.064(\text{柱間幅}) + 0.413 \dots \text{決定係数}(R^2 = 0.9992) \dots \dots \dots (4)$$

鼻川神社鳥居の範囲では、鳥居の柱間幅が増大するにつれ、貫高さは共に増大の傾向である。式 3 と式 4 の勾配は、それぞれ 1.192 と 1.064 である。式 3 と式 4 の決定係数は、それぞれ 0.9996 と 0.9992 である。式 3 の勾配と決定係数は、式 4 のより僅かに大きい値である。貫上高さの勾配と決定係数は、貫下高さよりわずかな相違点が判明した。

## 5. 考察

### 5-1. 西淀川内の鳥居文化の建立

西淀川区内の鳥居文化の建立について、建立年を神社順に並べた(図 3)。区内の神社鳥居の建立年は、田蓑神社の正門の永正 8(1511)年が古く、五社神社北裏門の平成 19(2007)年が新しい鳥居である。阪神・淡路大震災は、平成 7(1995 年)1 月 17 日(火)に起こった。震災後に建立した区内鳥居数は 8 基である。8 基の内容は、五社神社が 6 基、鼻川神社が 1 基、大野百島住吉神社が 1 基である。鼻川神社の正面鳥居とは拝殿横の鳥居は昭和 4(1929)年に、稲荷神社は昭和 56(1981)年に建立した。鼻川神社の鳥居は図 3 の枠線に囲まれている。

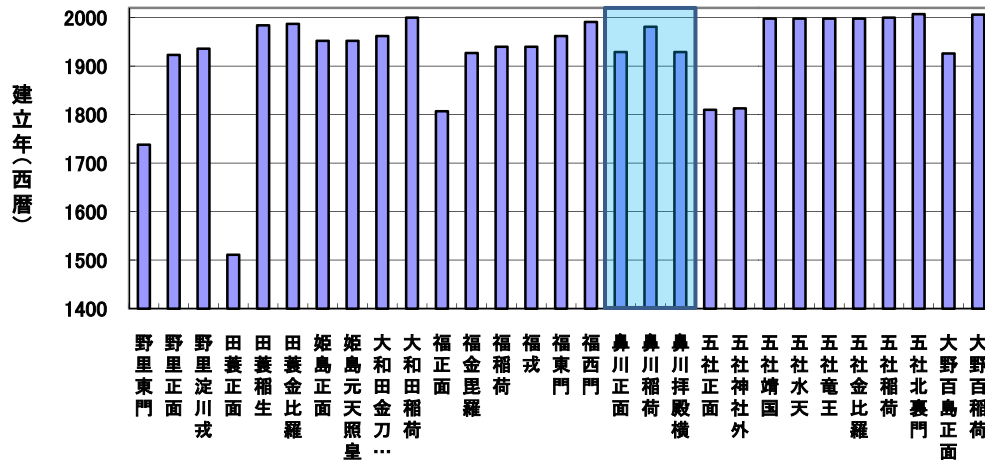


図 3. 西淀川区内神社にある鳥居文化遺産の神社別の順

鳥居文化遺産の中には、古い鳥居には表示が不明であることから削除しているため 29 基の鳥居のみ情報処理を行った。鼻川神社鳥居の正門の建立年度は、古いため判読が困難である。1800 年前では 2 基、1800 年代では 3 基、1900 年代の前半では 8 基、および 1900 年代の後半では 16 基を建立している。従って、戦後に多いことは理解できる。

## 5-2. 西淀川区内の鳥居の貫と笠木高さ

西淀川区内の神社は、仲哀天皇 9 年(200 年)、神功皇后が三韓征伐より七道の浜(現在の大阪府堺市堺区七道、南海本線七道駅一帯)に帰還した時、神功皇后への神託により天火明命の流れを汲む一族で摂津国住吉郡の豪族の田裳見宿禰が、住吉三神を祀ったのに始まる。その後、神功皇后も祭られる。応神天皇の頃からの大社の歴代宮司の津守氏は、田裳見宿禰の子の津守豊吾団(つもののとよあだ、つもののとよのごだん)を祖とする(ホームページ参照)。

西淀川区内は 1500 年前から船の往来が盛んで、海産業者が信仰を広めていた。神社と鳥居の建設が住民らの努力によって成し遂げられている。その古代の文化遺産を継承するためには次のような資料から認識していただきたいのである。区内の神社鳥居の建立年は、古い鳥居は阪神淡路大震災によって倒壊したところもある。住民の誠意ある努力と奉仕によって再建されたものもある。これらを次の世代に伝承するためにも次のような資料が必要であると痛感する。

柱間隔は 1.32~4.45m の範囲で、平均 2.34m である。貫高さは、下点の範囲(1.87~4.74m、平均 2.55m)と上点の範囲(2.01~5.15m、平均 2.77m)である。笠木高さは、下点の範囲(2.21~6.02m、平均 3.15m)と上点の範囲(2.39~6.27m、平均 3.35m)である。図 4 は区内の柱間幅(X 軸)に対する貫と笠木高さ(Y 軸)との関係を表示した。

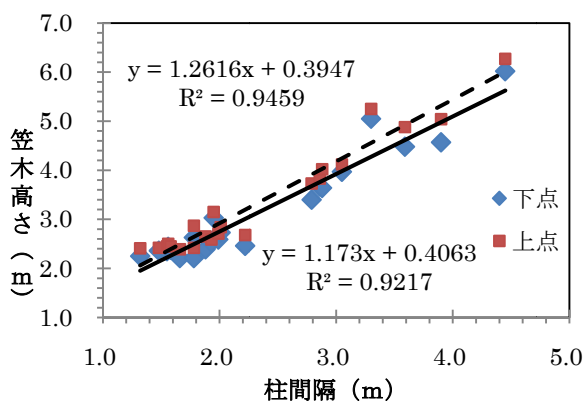
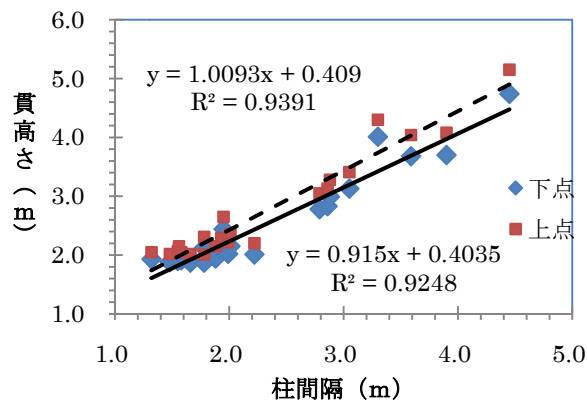


図4. 西淀川区内の柱間幅に対する貫と笠木高さとの関係

図4左は、西淀川区内鳥居の柱間幅(X軸で単位はm)と貫下高さ(Y軸で単位はm)との関係を究明するため測量値を図示した。鳥居上点である系列■表示は、直線方程式の破線、鳥居下点である系列◆表示は、直線方程式の実線である。貫下の高さは9.1D(直径)と貫上の高さは(9.1+0.8)=9.9Dに計算する外山晴彦(平成20(2008)年)手法を引用した。計算値と測量値との関係を究明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$Y_{貫上} = 1.009 \text{ 柱間幅} + 0.409 \dots \dots \dots \text{決定係数}(R^2 = 0.939) \dots \dots \dots (5)$$

$$Y_{貫下} = 0.915 \text{ 柱間幅} + 0.404 \dots \dots \dots \text{決定係数}(R^2 = 0.925) \dots \dots \dots (6)$$

西淀川区内鳥居の範囲では、鳥居の柱間幅が増大するにつれ、貫高さは共に増大の傾向である。式5と式6の勾配は、それぞれ1.009と0.915である。式5と式6の決定係数は、それぞれ0.939と0.925である。式5の勾配と決定係数は、式6のより大きい値である。貫上高さの勾配と決定係数は、貫下高さよりわずかな相違点が判明した。

図4右は、西淀川区内鳥居の柱間幅(X軸で単位はm)と笠木下高さ(Y軸で単位はm)との関係を究明するため測量値を図示した。鳥居上点である系列■表示は、直線方程式の破線、鳥居下点である系列◆表示は、直線方程式の実線である。笠木下の高さは11.2D(11.2は9.9と1.3の和である)と笠木上の高さは11.8D(11.8は11.2と0.6の和である)に計算する外山晴彦(平成20(2008)年)手法を引用した。計算値と測量値との関係を究明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

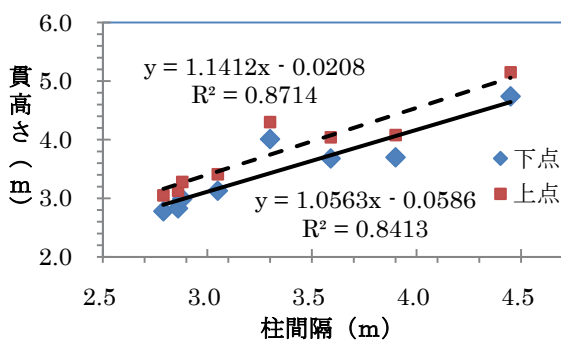
$$Y_{笠木上} = 1.262 \text{ 柱間幅} + 0.395 \dots \dots \dots \text{決定係数}(R^2 = 0.946) \dots \dots \dots (7)$$

$$Y_{笠木下} = 1.173 \text{ 柱間幅} + 0.406 \dots \dots \dots \text{決定係数}(R^2 = 0.922) \dots \dots \dots (8)$$

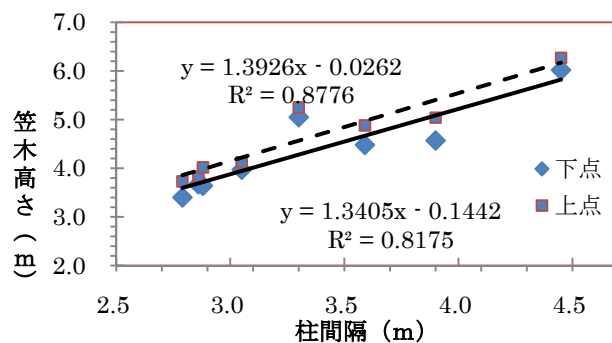
西淀川区内鳥居の範囲では、鳥居の柱間幅が増大するにつれ、笠木高さは共に増大の傾向である。式7と式8の勾配は、それぞれ1.262と1.173である。式7と式8の決定係数は、それぞれ0.946と0.922である。式7の勾配と決定係数は、式8のより大きい値である。

### 5-3. 西淀川区内にある正面の鳥居の貫と笠木の高さ

神社社殿の南向きが若干多い事が認められる。南向きとは、太陽が一番高く、長時間強く照らされる場所である。一部の国民は太陽を崇拜し、陽を吉や明るさを表現するような心情であると考えられる。西淀川区には、地域環境や区画整理によって逆方向も見られる。区内にある鳥居の貫高さ(ベスト10)については、鳥居の高さ(5m)以上は、姫嶋神社(5.15m)で最高である、次に、4m以上は、姫嶋神社(4.30m)・鼻川神社(4.08m)・鼻川神社(4.04m)・五社神社(4.02m)である。



区内正面鳥居の柱間幅と貫高さとの関係



区内正面鳥居の柱間幅と笠木高さとの関係

## 図 5. 西淀川区区内にある神社鳥居の柱間幅と高さとの関係

柱間隔は 2.79～4.45m の範囲で、平均 3.35m である。貫高さは、下点の範囲(2.78～4.74m、平均 3.48m)と上点の範囲(3.05～5.15m、平均 3.81m)である。笠木高さは、下点の範囲(3.40～6.02m、平均 4.35m)と上点の範囲(3.73～6.27m、平均 4.64m)である。区内正面鳥居の柱間幅と貫高さとの関係において、鳥居下部の高さは実線で、鳥居上部の高さは破線である。ここでは、正面鳥居の柱間幅と貫高さとの関係を図示した(図 5)。鼻川神社の正面大鳥居において、柱間隔は 3.90m、貫高さは、下点 3.70m、上点 4.08m である。笠木高さは、下点 4.57m、上点 5.04m である。

図 5 左は、西淀川区区内正面鳥居の柱間幅(X 軸で単位は m)と貫下高さ(Y 軸で単位は m)との関係を究明するため測量値を図示した。鳥居上点である系列■表示は、直線方程式の破線、鳥居下点である系列◆表示は、直線方程式の実線である。貫下の高さは  $9.1D$ (直径)と貫上の高さは  $(9.1+0.8)=9.9D$  に計算する外山晴彦(平成 20(2008)年)手法を引用した。計算値と測量値との関係を究明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$Y_{\text{貫上}} = 1.141 \text{ 柱間幅} - 0.021 \cdots \cdots \text{決定係数}(R^2 = 0.871) \cdots \cdots (9)$$

$$Y_{\text{貫下}} = 1.056 \text{ 柱間幅} - 0.059 \cdots \cdots \text{決定係数}(R^2 = 0.841) \cdots \cdots (10)$$

西淀川区区内正面鳥居の範囲では、鳥居の柱間幅が増大するにつれ、貫高さは共に増大の傾向である。式 9 と式 10 の勾配は、それぞれ 1.141 と 1.056 である。式 9 と式 10 の決定係数は、それぞれ 0.871 と 0.841 である。式 9 の勾配と決定係数は、式 10 のより大きい値である。貫上高さの勾配と決定係数は、貫下高さよりわずかな相違点が判明した。

図 5 右は、西淀川区区内正面鳥居の柱間幅(X 軸で単位は m)と笠木下高さ(Y 軸で単位は m)との関係を究明するため測量値を図示した。鳥居上点である系列■表示は、直線方程式の破線、鳥居下点である系列◆表示は、直線方程式の実線である。笠木下の高さは  $11.2D$ (11.2 は 9.9 と 1.3 の和である)と笠木上の高さは  $11.8D$ (11.8 は 11.2 と 0.6 の和である)に計算する外山晴彦(平成 20(2008)年)手法を引用した。計算値と測量値との関係を究明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$Y_{\text{笠木上}} = 1.393 \text{ 柱間幅} - 0.026 \cdots \cdots \text{決定係数}(R^2 = 0.878) \cdots \cdots (11)$$

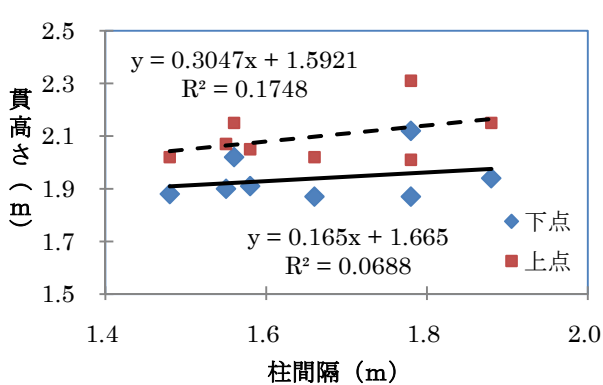
$$Y_{\text{笠木下}} = 1.341 \text{ 柱間幅} - 0.144 \cdots \cdots \text{決定係数}(R^2 = 0.818) \cdots \cdots (12)$$

西淀川区区内正面鳥居の範囲では、鳥居の柱間幅が増大するにつれ、笠木高さは共に増大の傾向である。式 11 と式 12 の勾配は、それぞれ 1.393 と 1.341 である。式 11 と式 12 の決定係数は、それぞれ 0.878 と 0.818 である。式 11 の勾配と決定係数は、式 12 のより大きい値である。

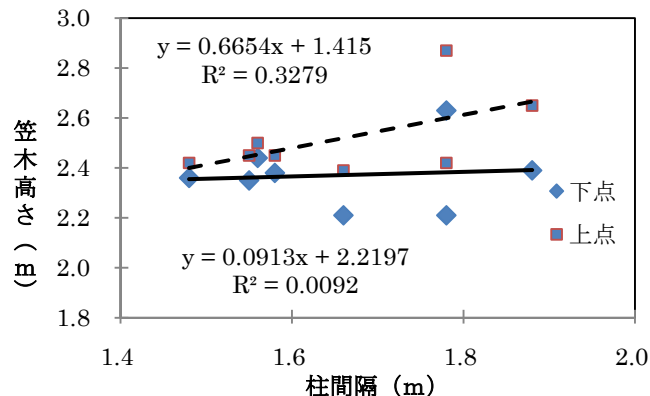
### 5-4. 西淀川区区内にある稲荷神社系の鳥居の貫と笠木の高さ

稲荷神社とは、空海が東寺を建立時、稲荷山の木を了解なく切り出した。そのため稲荷の神が怒って害をなした。その後空海は、稲荷神社を崇敬したため、空海の人氣が全国に広められたのが由来とされる。稲荷神社などにある鳥居の色は朱である。この色は、生命の躍動を表し災いを防ぐために使われるため鳥居にも影響している。区内の鳥居文化の建立について、鳥居文化遺産の建立年を神社順に並べた。区内の神社鳥居の建立年は、古い鳥居は鼻川神社の昭和 15 年(1940)年で、一方、新しい鳥居は大野百鳥神社の平成 18(2006)年で阪神大震災によるものである。

柱間隔は 1.48～1.88m の範囲で、平均 1.66m である。貫高さは、下点の範囲(1.87～2.12m、平均 1.94m)と上点の範囲(2.01～2.31m、平均 2.10m)である。笠木高さは、下点の範囲(2.21～2.63m、平均 2.37m)と上点の範囲(2.39～2.87m、平均 2.52m)である。稲荷神社系鳥居の柱間幅と貫高さとの関係において、鳥居下部の高さは実線で、鳥居上部の高さは破線である。ここでは、稲荷神社系鳥居の柱間幅と貫高さとの関係を図示した(図 6)。鼻川神社の正面大鳥居において、柱間隔は 1.66m、貫高さは、下点 1.87m、上点 2.02m である。笠木高さは、下点 2.21m、上点 2.39m である。



稲荷神社系の柱間幅と貫高さとの関係



稲荷神社系の柱間幅と笠木高さとの関係

図 6. 稲荷神社系の柱間幅に対する貫と笠木高さとの関係

図 6 左は、稲荷神社系鳥居の柱間幅(X 軸で単位は m)と貫下高さ(Y 軸で単位は m)との関係を究明するため測量値を図示した。鳥居上点である系列■表示は、直線方程式の破線、鳥居下点である系列◆表示は、直線方程式の実線である。貫下の高さは 9.1D(直径)と貫上の高さは(9.1+0.8)=9.9D に計算する外山晴彦(平成 20(2008)年)手法を引用した。計算値と測量値との関係を究明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$Y \text{ 貫上} = 0.305 \text{ 柱間幅} + 1.592 \dots\dots\dots \text{決定係数}(R^2 = 0.175)\dots\dots\dots(13)$$

$$Y \text{ 貫下} = 0.165 \text{ 柱間幅} + 1.665 \dots\dots\dots \text{決定係数}(R^2 = 0.069)\dots\dots\dots(14)$$

稲荷神社系鳥居の範囲では、鳥居の柱間幅が増大するにつれ、貫高さは共に増大の傾向である。式 13 と式 14 の勾配は、それぞれ 0.305 と 0.165 である。式 13 と式 14 の決定係数は、それぞれ 0.175 と 0.069 である。式 13 の勾配は、式 14 のより約 2 倍大きい値である。式 13 の決定係数は、式 14 のより約 2.5 倍大きい値である。このことは、稲荷神社系の 1 基が高いからである。貫上高さの勾配と決定係数は、貫下高さとの相違点が判明した。

図 6 右は、稲荷神社系鳥居の柱間幅(X 軸で単位は m)と笠木下高さ(Y 軸で単位は m)との関係を究明するため測量値を図示した。鳥居上点である系列■表示は、直線方程式の破線、鳥居下点である系列◆表示は、直線方程式の実線である。笠木下の高さは 11.2D(11.2 は 9.9 と 1.3 の和である)と笠木上の高さは 11.8D(11.8 は 11.2 と 0.6 の和である)に計算する外山晴彦(平成 20(2008)年)手法を引用した。計算値と測量値との関係を究明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$Y \text{ 笠木上} = 0.665 \text{ 柱間幅} + 1.415\dots\dots\dots \text{決定係数}(R^2 = 0.069)\dots\dots\dots(15)$$

$$Y \text{ 笠木下} = 0.091 \text{ 柱間幅} + 2.220\dots\dots\dots \text{決定係数}(R^2 = 0.009)\dots\dots\dots(16)$$

稲荷神社系鳥居の範囲では、鳥居の柱間幅が増大するにつれ、笠木高さは共に増大の傾向である。式 15 と式 16 の勾配は、それぞれ 0.665 と 0.091 である。式 15 と式 16 の決定係数は、それぞれ 0.069 と 0.009 である。式 15 の勾配と決定係数は、式 16 のより大きい値である。

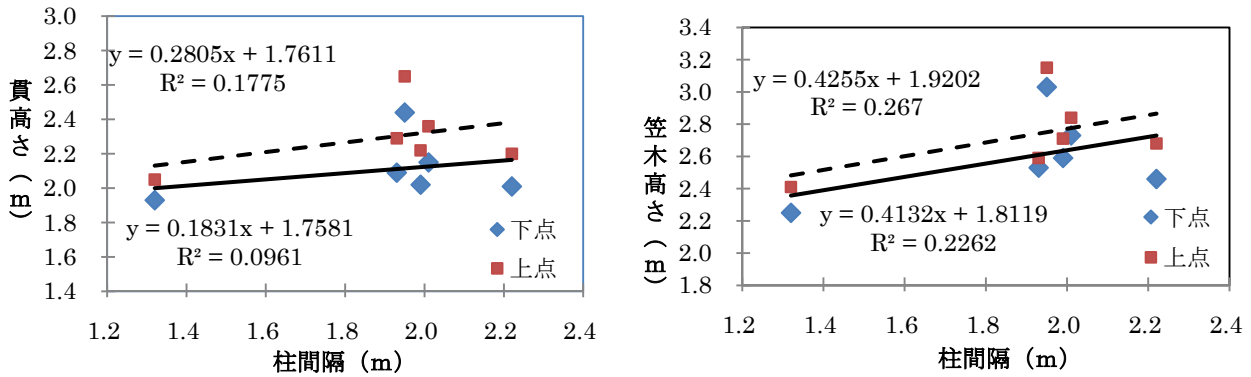
### 5-5. 西淀川区内にある金毘羅神社系の鳥居の貫と笠木の高さ

江戸時代に船の往来が盛んで、海運業者らによって金毘羅信仰が広められた。明治維新に神仏分離によって神仏習合の金毘羅大権現は廃止になり、主祭神とする神道の神社になった。金刀比羅神社・琴平神社・金比羅神社は、香川県琴平町に総本宮とし、大物主神を祀る神社で、「神社」ではなく「宮」と称している。区内の鳥居文化の建立について



て、鳥居文化遺産の建立年を神社順に並べた。区内の神社鳥居の建立年は、古い鳥居は鼻川神社の昭和 2 年 (1927)年で、一方、新しい鳥居は五社神社の平成 10(1998)年で阪神大震災によるものである。

柱間隔は 1.32~2.22m の範囲で、平均 1.90m である。貫高さは、下点の範囲(1.93~2.44m、平均 2.11m)と上点の範囲(2.05~2.65m、平均 2.30m)である。笠木高さは、下点の範囲(2.25~3.03m、平均 2.60m)と上点の範囲(2.41~3.15m、平均 2.73m)である。区内金毘羅神社系の鳥居の貫と笠木の高さとの関係を図 7 に表示している。



金毘羅神社の柱間幅と貫高さとの関係

金毘羅神社の柱間幅と笠木高さとの関係

図 7. 金毘羅神社系の柱間幅に対する貫と笠木高さとの関係

図 7 左は、金毘羅神社系鳥居の柱間幅(X 軸で単位は m)と貫下高さ(Y 軸で単位は m)との関係を究明するため測量値を図示した。鳥居上点である系列■表示は、直線方程式の破線、鳥居下点である系列◆表示は、直線方程式の実線である。貫下の高さは 9.1D(直径)と貫上の高さは(9.1+0.8)=9.9D に計算する外山晴彦(平成 20(2008)年)手法を引用した。計算値と測量値との関係を究明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$Y_{\text{貫上}} = 0.281 \text{ 柱間幅} + 1.761 \dots \dots \dots \text{決定係数}(R^2 = 0.178) \dots \dots \dots (17)$$

$$Y_{\text{貫下}} = 0.183 \text{ 柱間幅} + 1.758 \dots \dots \dots \text{決定係数}(R^2 = 0.096) \dots \dots \dots (18)$$

金毘羅神社系神社鳥居の範囲では、鳥居の柱間幅が増大するにつれ、貫高さは共に増大の傾向である。式 17 と式 18 の勾配は、それぞれ 0.281 と 0.183 である。式 17 と式 18 の決定係数は、それぞれ 0.178 と 0.096 である。式 17 の勾配は、式 18 のより大きい値である。式 1 の決定係数は、式 2 のより約 2.5 倍大きい値である。このことは金毘羅神社系の 1 基が高いからである。貫上高さの勾配と決定係数は、貫下高さとの相違点が判明した。

図 7 右は、金毘羅神社系鳥居の柱間幅(X 軸で単位は m)と笠木下高さ(Y 軸で単位は m)との関係を究明するため測量値を図示した。鳥居上点である系列■表示は、直線方程式の破線、鳥居下点である系列◆表示は、直線方程式の実線である。笠木下の高さは 11.2D(11.2 は 9.9 と 1.3 の和である)と笠木上の高さは 11.8D(11.8 は 11.2 と 0.6 の和である)に計算する外山晴彦(平成 20(2008)年)手法を引用した。計算値と測量値との関係を究明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$Y_{\text{笠木上}} = 0.425 \text{ 柱間幅} + 1.920 \dots \dots \dots \text{決定係数}(R^2 = 0.267) \dots \dots \dots (19)$$

$$Y_{\text{笠木下}} = 0.413 \text{ 柱間幅} + 1.812 \dots \dots \dots \text{決定係数}(R^2 = 0.226) \dots \dots \dots (20)$$

金毘羅神社系神社鳥居の範囲では、鳥居の柱間幅が増大するにつれ、笠木高さは共に増大の傾向である。式 19 と式 20 の勾配は、それぞれ 0.425 と 0.413 である。式 19 と式 20 の決定係数は、それぞれ 0.267 と 0.226 である。式 19 の勾配と決定係数は、式 20 のより大きい値である。

## 5-6. 全国と西淀川区内の鳥居の高さ

ホームページなどで公表している資料を収集し、西淀川区内にある神社との比較を行った。結果を図8に表示している。この図8における左側のプロット数は、区内の資料である。グラフの右上にあるのは、全国で最も高い神社の鳥居である。直線より左側にある鳥居は5基である。これは、標準値より上方へシフトしていることが分かる。地域の区画整理等の環境の変化によることもあれば、鳥居設計者による思想であるかもわからない。

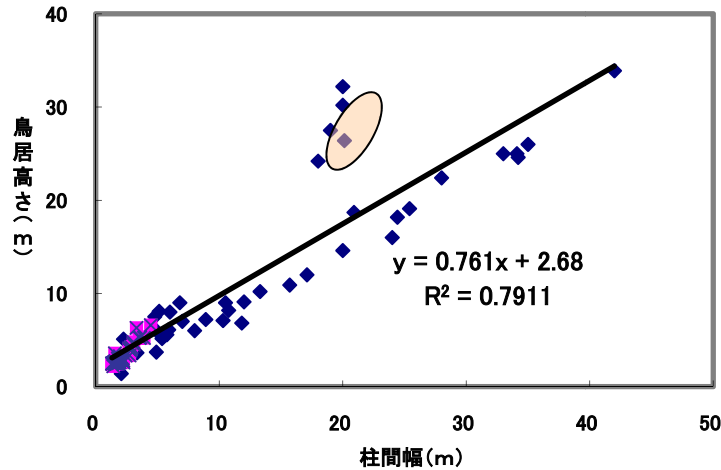


図8. 全国と西淀川にある鳥居の柱間幅と高さとの関係

そのため、グラフ下は各神社の資料との区分が明白になっている。この中で、熊野本宮の鳥居は、33.8mで国内最高である。次に高い鳥居は、大宮神社(33.2m)であることが確認された。このようなことを比較すれば、西淀川区内にある鳥居は約7m以下である。すなわち、熊野本宮と大宮神社の高さは、西淀川の神社よりも約4~5倍であることが確認された。

外山晴彦(平成20(2008)年)によると笠木上の高さは、直径の11.8倍になっている。ここで、推定値の直径の11.8倍は、貫の幅0.8、貫と笠木間の幅1.3および笠木の幅0.6の和である。全国と区内の柱間幅と笠木高さとの関係において、鳥居下部の高さは実線で、鳥居上部の高さは破線である。神社鳥居の範囲では、柱間幅が増大するにつれ、鳥居の高さは共に増大の傾向である。このグラフの勾配と決定係数は、0.761と0.791である。

## 6. おわりに

### 6-1. 西淀川区の地域環境

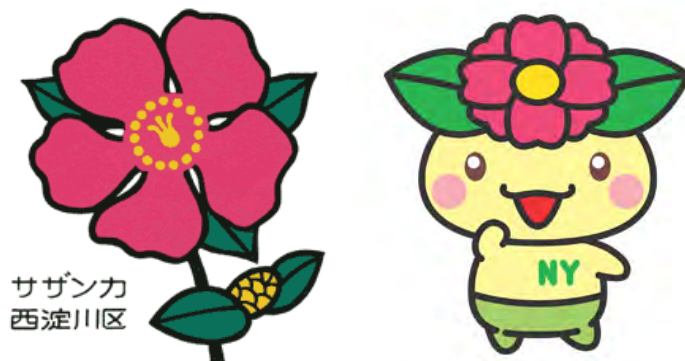
日本列島形成時に太古の西淀川区はまだ海の底で、大阪湾の東は生駒山麓、西は六甲山麓まで深く入りこんだ海である。それから長い年月にわたり淀川、大和川、武庫川などの運んできた土砂が、河口に堆積して洲をつくり、次第に島になった。これが古代に難波八十島と呼ばれたのである。西淀川区の地名に、竹島、御幣島、佃島、出来島、姫島、百島、中島、城島、西島、外島など、島の名が多いのは、その名残と言える。これらの地は、古くから都の貴族や文人の間によく知られ、今日残されている多くの歌碑から知ることができる。

水辺に拓かれた地は、古来幾度となく水禍に見舞われた。区内の神社の多くが、海上の守護神である住吉大社を勧請しているのも、昔の水災をしのぶのである。現在は浸水対策として、大規模な防潮堤が築造され、今後の抜本的な浸水対策として、"淀の大放水路"も着工した。

西淀川区の誕生は大正14(1925)年4月1日で、明治・大正・昭和の初期にかけ、水運の発達や鉄道・道路・橋梁などの急速な整備に伴い、紡績・機械・金属・鉄鋼・化学といった近代工業が集中し一大工業地帯を形成した。しかし、これらの工業地帯は一方では大気汚染の発生源となり、当区に深刻な公害問題を生じさせたが、いち早く発生源対策

を鋭意推進してきた結果一定の成果をあげた。河川汚濁の多い大野川・中島大水道も市民生活の環境改善を図り、緑あふれる緑陰道路として再生され、広く区民の憩いの場・健康づくりの場として活用されている。

さらに、西淀川区を緑豊かな潤いのまちにしたいとの願いから、昭和 50(1975)年、区制 50 周年を記念して、区の花に「サザンカ」が定められた。西淀川区のマスコット「に～よん」もある町である。



西淀川区の規模は、大阪府大阪市の最西端に位置し、東西間距離約 5.31km、南北間距離約 5.94km、境界線距離約 17.68km、総面積 14.23 平方 km、人口 99,090 人である。①区内最東端の町である柏里 1 丁目は、34°42'33"N と 135°28'15"E で、標高 1m である。②区内最西端の町である中島 2 丁目は、34°42'23"N と 135°25'57"E で、標高 0m である。③区内最南端の町である西島 2 丁目は、34°41'13"N と 135°25'05"E で、標高 1m である。④区内最北端の町である竹島 5 丁目は、34°43'59"N と 135°26'57"E で、標高 0m である。⑤大阪市西淀川区には、多くの組織・施設が地域に貢献し、社会を構成している。⑥3 島名は中島・西島・佃島である。3 橋道路線名は池田線・神戸線・湾岸線である。⑦4 鉄道名は JR 東海道本線・JR 東西線・阪神本線・阪神なんば線である。⑧4 市立中学校名(創立順)は淀・西淀・歌島・佃である。⑨5+2 川名は中島川・左門殿川・神崎川・西島川・淀川・旧大野川・旧中津川である。⑩7 駅名は塚本駅・御幣島駅・加島駅・姫島駅・千船駅・福駅・出来島駅である。⑪8 神社は野里住吉神社・田蓑神社・姫嶋神社・大和田住吉神社・福住吉神社・鼻川神社・五社神社・大野百島住吉神社である。⑫14 市立小学校名(創立順)は香簾・野里・歌島・佃西・佃・大和田・姫里・福・姫島・出来島・佃南・川北・柏里・御幣島である。⑬17 町名は西島・百島・大野・竹島・花川・千舟・福町・柏里・中島・出来島・歌島・姫里・野里・大和田・姫島・御幣島・佃である。⑭17 橋名は中島新橋・辰巳橋・左門小橋・左門橋・中島出来島大橋・城島橋・城島小橋・千北橋・千船大橋・神崎大橋・両島橋・中島大野高架橋・新伝法大橋・伝法大橋・淀川大橋・中島川橋・神崎川橋である。

## 6-2.西淀川区にある鼻川神社の調査要約

大阪市西淀川区、鼻川神社の由来と測量と解析によって明らかにした点と鳥居の詳細な測量値に基づいて模型製作を行なった点を要約する。

1. 鼻川神社の鳥居建立は、1981～1929 年間である。
2. 鼻川神社の由来については、四ヶ国語(日本語・英語・韓国語・中国語)用語を翻訳した。
3. 鼻川神社鳥居の構造観察の結果を要約する。反り増しと島木の角型曲線の有は、正面大鳥居、稻荷神社鳥居、西門鳥居、金毘羅神社鳥居と福戎神社鳥居である。台輪は、すべて無である。楔と額束は、全末社が有である。貫の四角外側は、正面大鳥居、稻荷神社鳥居、西門鳥居、福戎神社鳥居の 4 末社である。四角内側は、金毘羅神社鳥居である。根巻・藁座の有は稻荷神社鳥居であり、無は正面大鳥居と金刀比羅宮鳥居である。根巻藁座の有は福戎神社鳥居であり、無はその他の 4 鳥居である。亀腹・饅頭の有は 5 鳥居である。

4. 鼻川神社の鳥居計測値の結果と解析を要約する。柱内側の幅と貫中央の高さの実測値は、円周から計算した直径よりも実測した直径がより近い値である。柱内側の幅と笠木頂点の高さの実測値は、円周から計算した直径よりも実測した直径がより近い値である。これは、図の解析や回帰式および決定係数からも明白に理解できる。この貫の厚さは、笠木の厚さより厚い。神社内の正面大鳥居は、最も高く、金比羅神社から稲荷神社の鳥居が低くなっている。
5. 鼻川神社の鳥居の模型製作は、鳥居実測の 20 分の 1 である。

## 謝 辞

神社の調査時には、大阪市西淀川区にある鼻川神社の下垣 太宮司に了解を頂きました。本論文作成にあたっては、資料提供のご協力を頂きました大阪市西淀川区役所の木本敏行区長と関係者をはじめ大阪府神社庁と大神神社の関係各位に感謝申し上げます。図書文献の調査提供には、大阪市立西淀川図書館の斎藤健一館長に感謝申し上げます。

和英の翻訳には上野裕講師、和韓の翻訳には金世徳学術博士・朴永昊学術博士、和中の翻訳には富田和広・立川昌司社長に感謝申し上げます。測量・撮影・情報分析・情報処理には、地元の北川和孝彫刻師、西谷真志氏および NPO 法人洞窟環境 NET 学会の藤田浩史相談役の各氏に厚く御礼申し上げます。

(2010 年 12 月 1 日受稿、2010 年 12 月 25 日掲載決定)

## 参 考 文 献

- 1) 大阪都市協会編:『西淀川今昔写真集—西淀川区制 70 周年記念』、西淀川区制 70 周年記念事業実行委員会、1995 年
- 2) 大阪都市協会編:『西淀川区史』、西淀川区制 70 周年記念事業実行委員会、1996 年
- 3) 外山晴彦・サライ編集部:『神社の見方』、小学館 第五刷、2005 年
- 4) 根岸榮隆:『鳥居の研究』、第一書房、2007 年
- 5) 梨本敬法他:『これだけは知っておきたい神社入門』、洋泉社、2007 年
- 6) 正木晃・中尾伊早子監修:『よくわかる！神社 神宮』、PHP 研究所、2007 年
- 7) 黒田一充・編集:『神社を中心とする村落生活調査報告書 1 大阪府(なにわ・大阪文化遺産学叢書 3)』、関西大学、2007 年
- 8) 渋谷伸博:『日本の神社』、日本文芸社、2008 年
- 9) 井上順孝:『図解雑学!神道』、ナツメ 第五刷、2008 年
- 10) 外山晴彦:『神社のことがよくわかる本』、東京書籍、2008 年
- 11) 山形明郷:『卑弥呼の正体』、三五館、2010 年
- 12) 洞窟環境 NET 学会:「大阪市西淀川区の神社研究」<http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html>.2010 年
- 13) 沢 勲・西山正明・石田信也・北川和孝:「大阪市西淀川区、野里住吉神社(1382 年)の末社と石燈籠と鳥居」、大阪経済法科大学地域総合研究所紀要、3 号、2011 年
- 14) 沢 勲・肥塚義明・北川和孝:「大阪市西淀川区、野里住吉神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2010 年
- 15) 沢 勲・上野裕・西山正明:「大阪市西淀川区、田養神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2010 年
- 16) 沢 勲・石田信也・朴永昊:「大阪市西淀川区、姫嶋神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2010 年
- 17) 沢 勲・富田和広・肥塚義明:「大阪市西淀川区、大和田住吉神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2010 年
- 18) 沢 勲・西山正明・金世徳:「大阪市西淀川区、福住吉神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2010 年
- 19) 沢 勲・上野裕・西山正明:「大阪市西淀川区、五社神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2010 年
- 20) 沢 勲・石田信也・朴永昊:「大阪市西淀川区、大野百鳥住吉神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2010 年